

新潟市潟環境研究所 第2回月例会議（概要）

日時：平成26年5月21日（水）午後3時～午後5時15分

場所：新潟市役所第1分館101会議室

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・月例会議講義の年間予定案について（事務局）
- ・潟環境研究所のフェイスブックページ開設について（事務局）
- ・6月1日福島潟自然体験イベントと自然と農業を考えるトークイベントについて（北区地域課）

2 業務紹介 「環境政策課が行っている潟に関する取り組みについて」（環境政策課）

- ・環境政策課の潟に対する主な業務は、野生鳥獣の保護管理に関すること、生物多様性保全の推進に関すること、湿地の保全と管理の3つがある。
- ・ラムサール条約登録湿地である佐潟では、当条約の3つの基本理念である「保全」「賢明な利用」「交流・学習・普及啓発（CEPA）」に基づき、平成12年度に「佐潟周辺自然環境保全計画」を策定し、平成18年には計画の改訂を行った。その後、佐潟を取り巻く環境に変化がみられることや、平成24年3月に「にいがた命のつながりプランー新潟市生物多様性地域計画ー」が策定されたことなどを受け、平成26年3月に2回目の改定を行った。
- ・保全計画では「里潟※の精神」や「ラムサール条約の理念」に基づき、佐潟が持続的に利用され、国際的に重要な湿地として将来にわたり保全されることを目的に、「保全」「賢明な利用」「交流・学習・普及啓発（CEPA）」について基本方針を掲げている。

※里潟：「にいがた命のつながりプラン」では、佐潟のように、人々の関わりによって物質循環が維持されることで、多様な動植物の生息・生育する豊かな湿地環境が保たれるとともに、人々の暮らしや文化、景観と深くかかわり、自然と共生する湿地を「里潟」と称している。

3 講義「田んぼダムは水質改善にも貢献するのか？」（吉川 夏樹 客員研究員/新潟大学農学部准教授）

- ・気象条件の変化や都市化の進展により、新たな水害対策についての検討がされ始めた。
- ・田んぼダムとは、水田からの排水量を調整することによって、大雨時に水田に雨水を貯留し、ゆっくりと排水することで排水路の流量を抑えるもの。
- ・面的に広がる水田を利用し、小さな費用で高い水害抑制効果が期待できる。
- ・田んぼダムは水稻生産にはプラスの影響もマイナスの影響もないが、協力農家に大きなメリットもないのが現状。
- ・そこで、田んぼダムが水田からの肥沃な土の流出を抑えることに効果があれば、農家のメリットにもなり、また河川や潟等の水質汚濁の軽減、土砂の堆積による治水機能の低下を抑えられるといった仮説を立てて現在調査、研究を行っている。